

認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
れんぎ

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel. +86-871-63311468 Fax. +86-871-63320658
f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
ブログ [雲南の郵便屋さん] 検索
編集・発行人 初鹿野 惠蘭
印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第49号

発行日 2014年(平成26年)5月15日

会報

喜び運ぶ 手紙160通が届きました!

中国雲南省の少数民族の女子生徒たちへ就学を支援する「25の小さな夢基金」。その魅力は、手紙のやりとり等の交流によって、支援する相手の反応が“見える”ことだと見えるでしょう。サポーターの皆さんの中には、支援決定時にお礼の手紙、その後は春節と学年末の年2回、そして卒業時と、支援する生徒から定期的に手紙が届きます。年に数回届く手紙は、サポーターの一人である私にとっても大きな楽しみとなっています。

今年も、2月に生徒からの手紙が160通余り届きました。ほとんどは中国語で書かれているため、日本語に訳す必要があります。



そこで、沢山の翻訳ボランティアの方々にご協力いただき、3月までに無事にサポーター全員へ手紙をお届けすることができました。翻訳ボランティアの皆様に感謝いたします。

さて一方、サポーターの皆さんから生徒への手紙は義務付けてはおりませんが、雲南少数民族の女子生徒たちも、日本のサポーターからのお手紙を受け取るととても喜びます。サポーターからのお手紙は、昆明支部で中国語に翻訳し、原文とともに生徒の元へ届けています。この3月初めには、

サポーターの都筑顧問、学生から手紙とプレゼントを受け取りました! 笑顔満開♪

生徒45名宛のお手紙が東京本部へ届き、初鹿野理事長が出張時に昆明支部へ届けました。皆様のあたたかいご支援、ありがとうございます。今年も6月に「ふれあいの旅」を実施いたしますので、ぜひこの機会に支援生徒との交流を深めていただけたらと存じます。

「25の小さな夢基金」
担当 上原正夫

日本から陳さん親子が愛情いっぱいの手紙とプレゼントを事務局に持ってきてくださいました



始まって、受取った手紙を読んで胸が熱くなりました。手紙には、「親愛なるお姉さま、感謝の気持ちを言い尽せません。(略) 私も自然が大好きです。お会いしたことはなくても、趣味や好きなモノについて共通するものがあったなら、面識があるも同然です!」と書いてありました。こういったやりとりが出来て、より一層支援している子を身近に感じることができ、とても嬉しく思います。これからも協会を通じて様々な雲南の文化に触れていきたいです。

学生からイラストを
もらつたので、南さんも
お手製のイラストを
プレゼントしました!

私が「25の小さな夢基金」に参加させていただいたのは、去年の11月頃でした。紹介してくださった方から、法人としての透明性も高く、数少ない認定NPO法人であると教えていただき、実際にイベントに足を運んで、初鹿野惠蘭理事長にお目にかかりました。後日、改めてお話を伺った際に「微力でも力になりたい」と思い、申し込みさせていただいたのを覚えています。少数民族の子を支援するという初めての経験にドキドキしていましたが、実際に支援している女の子との交流が



夢基金サポーター
南 美穂さん

ばかりになってしまふと、連絡が途絶えたり、先輩後輩のつながりが薄れてしまったりすることがありました。そこで、夢基金卒業生を中心に、知識や情熱を生かし、協会と協力しながら雲南省と日本の将来のために活動する組織を作ろうということになったのです。

協会の正式な所属団体となる「雲南春蕾連盟会」は、夢基金卒業生たちが団結し、支え合う家族的な組織にしていきたいと考えています。また、将来的には経済・文化交流の架け橋として活躍していく予定です。現在、幹部の学生たちが組織整備を進めています。

これからも皆で協力して頑張ります

春蕾連盟会幹部: 秦德英(雲財大・モソ族)、楊紅雲(雲財大・リス族)、龔双鳳(雲師大・イ族)、依金罕(雲師大・タイ族)、劉慧娟(雲民大・ヌー族)、玉應坎(雲農大・ブーラン族)、李英(昆理工大・ラフ族)、莽德芬(雲師大・ペー族)、陳雄(雲財大教職員)

雲南春蕾連盟会顧問: 初鹿野惠蘭、林則幸、肖涵予(雲財大教職員)



会議中。理事長と皆で今後について真剣に話し合いました。

「25の小さな夢基金」卒業生による 「雲南春蕾連盟会」 が発足しました!



春蕾クラスOG大集合!

かつて「25の小さな夢基金」の支援を受けた昆明女子高校の卒業生たち15名が3月15日、昆明市内のホテルで、卒業生組織「雲南春蕾連盟会」を発足させました。6月末に予定されている25の小さな夢基金フォーラム「未来を創る」の際に正式な創立式を行う予定です。

経済的に苦しい状況にある少数民族の女子生徒を支援する「25の小さな夢基金」。協会が同プロジェクトを立ち上げたのは2007年のことでした。現在までに370名が支援を受け、170名を超える女子生徒が支援を受けて高校を卒業し、次々に大学へ進学しました。

しかし、卒業後時間がたち、離れ

今回の取材で、「25の小さな夢基金」第1期生(2009年卒業)から第5期生(2013年卒業)までの計13名に面会しました。既に大学を卒業した第1期生は、故郷に帰り公務員や教師となった人、大学院へ進学した人など様々です。中には意に添った道を選択できなかった人もいますが、大学生活のさまざまな経験の中から多くのことを学び、それぞれの道を懸命に歩んでいます。

久しぶりの面会で皆春蕾生の頃とは外見も内面も大違い。共通しているのは、「感謝の気

持ち」を忘れないことです。協会の里親支援をはじめ、「社会の人々の愛を受けて今自分は夢を追いかけることができる」との感謝の気持ちを持って毎日奮闘しているようです。現実社会への不安を抱えながらも、自分の足で明るく、前向きに、立ち向かおうとしている姿は、春蕾卒業のときよりもなお一層眩しく感じられました。まさに“蕾”が“大きな花”を開こうとしているようでした。

次回会報第50号から、インタビューの詳細をお伝えする予定です。

“蕾”から“大きな花へ”—夢基金生のその後—

「25の小さな夢基金」が始まって7年。日本の支援を受けて高校を卒業した春蕾少数民族女子高生たちは、その後どのような人生を歩んでいるのでしょうか。4月、昆明に2年駐在していた会員の平田栄一さんが、里親の皆さんに代わって協会初の追跡取材を行いました。今後、インタビュー内容の書籍化も検討中です。

インタビューを受ける生徒たち。
春蕾卒業後も明るく前向きに歩んでいます。



★“輝くアジア”へ 決意新た アジア新産業創造研究会 代表が2大学で講演

協会が2012年に始めた「アジア未来への人材プロジェクト」の一環として、「アジア新産業創造研究会」代表の立場で3月19日に雲南大学滇池学院、20日に雲南師範大学で講演させていただきました。同研究会は、新たな産業育成を通じて都市と農村の経済格差を解消し、少数民族の自立を図る目的で今年2月に設立された協会内組織です。

日本語を学びたての総勢150名の学生さ



学生たちにも大人気！皆楽しく参加しました！



「輝くアジアを創ろう！」と
学生たちに宣言

んたちに「日本の魅力を伝え、学ぶ意欲を高める講演を」という依頼を受け、とにかく日本の良さである歴史と伝統や高い技術力を詰め込んだ映像や資料を手に、現地に乗り込みました。

最初に驚いたのは、何よりも学生さんのエネルギーと日本に対する純粋な思いの強さで、挨拶や発言はいずれも活力にあふれています。また、海外にないみの薄い彼らにとって、日本の四季折々の風景は全くの別世界らしく、彼らの驚きの表情が、

逆に私には新鮮でした。

日本を紹介した後、協会のこれまでの活動を短い映像で振り返りました。そして、雲南だけでなく、実は日本にも様々な社会問題があり、苦しんでいる人がいることを伝えました。そうした話の最後に、少し変わった問いかけをしてみました。

「歴史とエネルギー溢れる雲南と、技術と伝統を持つ日本が一緒になれば、輝くアジアだって創れちゃうと思わない？」

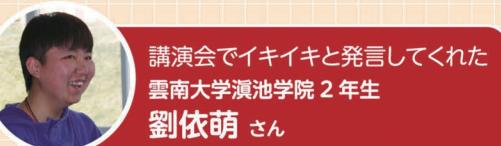
雲南と日本の問題をそれぞれの違った視点から解決する、そうした動きをアジア全域に広げていくことこそ、これから時代に必要なだということを伝えたかったのです。

彼らにとってこうした問いかけは初めてだったらしく、新鮮な驚きが広がると同時に、「輝くアジア」を目指して会場が一つになりました。彼らの思いに答えるためにも、万全の態勢で彼らを迎える研究会を作らなければ、と思いを新たにしました。

協会主催「アジア新産業創造研究会」
代表 松田雄馬



「25の小さな夢基金」で支援を受けている学生たちも
参加しました。雄馬さんのお話を聞き入っています



講演会でイキイキと発言してくれた
雲南大学滇池学院2年生
劉依萌さん

今日の講演会は本当に楽しかったです。動画を使ったりしながら、日本のこといろいろ紹介してくださいました。面白くて、あつという間に終わってしまいました。

一番印象残ったのは、「輝くアジアを創ろう」という言葉です。この言葉を聞いて、輝くアジアを創るために、自分も力になりたいと思いました。今、私たちは大学生です。若くて、エネルギーと情熱を持っているれば、私たちにも何か出来ることがあるのではないかでしょうか。またこういう講演会があればぜひ参加したいです。

「アジア新産業創造研究会」発足

参加者の間でも活発な議論が
なされています



認定NPO法人日本雲南聯誼協会に今年2月、「アジア新産業創造研究会」が発足しました。協会はこれまで、雲南の少数民族が抱える様々な問題の解決に取り組んできました。この研究会は、そうした問題の根本的原因である都市部と農村部の経

経営者、研究者、学生等毎回さまざまな
バックグラウンドを持つ方が集まります



格差解消に取り組むことを目的としています。貧困地域に金銭的支援を行うのではなく、雲南の少数民族が、一次産業以外に持続可能な二次、三次の産業を自ら創り出し、豊かなライフスタイルを実現できる仕組み作りを目指します。他方で、このプロジェクトは雲南省の発展に資するのみならず、日本及び雲南省の若い人材のネットワーク作り並びに相互発展に寄与することを目標としています。

研究会は4月までに三回の会議を開き、毎回20名を超える協会会員・非会員が参加しました。取り組むべきテーマを明確にする中、日本側から様々なビジネスアイデアが提案され、雲南と連携して具体化していくための話し合いが、徐々にではありますか進み始めました。

5月には、学生を中心に100名を超える少数民族出身の若者から、農村部の生活状況に関する調査報告が届きます。この結果を受け、研究会は温めているビジネスアイデアを事業計画に昇華させたうえで、日本雲南双方のメンバーで組織するチームを作り、



懇親会も大いに盛り上がり、交流がたくさん生まれました

実際の事業化に向けて動き出す予定です。

まだまだ発足間もない研究会ですが、引き続き動向を見守っていただくと共に、ご支援ご協力のほど宜しくお願い致します。

幹事（初鹿野理事長、松田雄馬、林則幸、庄司智哉、吉成絢香、坂本仁、菊地瑛里、夏婷莹）

【次回研究会の予定】

5月30日(金) 16:00-18:00

㈱技術評論社5階会議室にて開催。

参加希望者はyuma@jyfa.org(代表松田)またはhayashi@jyfa.org(上席研究員・林)までご連絡下さい。

新社会人として 活動を始めます！



桜が散り、行く春が惜しまれる季節となりました。私事ではありますが、去る3月に立命館アジア太平洋大学を卒業し、4月1日より社会人となりました。振り返ってみれば、協会のお手伝いのため4年間の学生生活で3度雲南に行き、延べ数百人の子どもたちと交流することができました。雲南との出会いは大学1年生の9月でした。ボランティアに対してほんやりと興味があったものの、実は中国に対しては決して良い印象を持っていませんでした。しかし五感で中国・雲南を知っていくにつれ、雲南の人、文化、食、自然、全ての虜になってしまいました。また、活動を通じて年齢やバッケージラウンドは違えど同じ志を持った素敵な方々に多く出会い、一つの出会いに感動しました。初鹿野理事長をはじめ、ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。これからは社会人として、学生時代とは異なった形での貢献をしていきたいと思っています。まだまだ未熟な私ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ致します。

平成26年4月4月より正会員
庄司智哉

理事長が GasOneグループ 季刊誌に登場します！

当協会の初鹿野理事長が2月24日、Gas Oneグループの情報誌『炎の花束』(毎号20万部発行)の取材を受けました。この記事は、同誌第58号(夏号)の「スマイル百選コーナー」に掲載される予定です。今回の取材は、新しく協会顧問に就任した株式会社サイサンライフの竹内達常務取締役のご紹介により実現しました。本格的な機材が持ち込まれたインタビューは、2時間にも及びました。株式会社サイサンのGasOneをご利用の方には、近くお手元に届くと思いますので、どうぞお楽しみに！



インタビューを受ける
初鹿野理事長

音楽通じ思いを被災地へ 音楽レベルから今年もご寄付



お心く事務局長の
おりからださいままで
感謝して届けさせ
りります。副社長の佐藤さん
まで届けさせ
りません。
がんば
ります。

協会の「東日本大震災支援交流プロジェクト」を継続的にご支援くださっている音楽レーベルBIGMADE MUSIC。今年3月にも、所属アーティストの皆さんなどがCDの収益やライブ活動で集めた寄付金を協会にお持ちくださいました。お預かりした支援金は、協会が責任を持って被災地の小学校や子どもたちのために使わせていただきます。

ビッグメイドミュージックが主催する 震災支援「ダンボール メッセージプロジェクト」

詳細はこちら。

<https://www.facebook.com/danboru.message>

協会「25の小さな夢基金」で応援する少数民族の生徒たちも参加していますので、是非御覧ください。

協会と企業の連携 ボランティア2名が 株式会社サイサンに入社

初鹿野理事長は
お二人の親代わりに
入社式に参列しました。

桜が満開を迎えた4月1日、協会のボランティア留学生の劉翠さんとアリア・スマ依さんが、株式会社サイサンの新入社員となりました。株式会社サイサンは川本会長(故人)以来、10年以上協会を応援してくださっています。株式会社サイサンライフ現常務取締役で協会顧問の竹内達さんから「優秀な人材



左から劉翠さん、初鹿野理事長、
川本武彦(株式会社サイサン社長)、
アリア・スマ依さん、ラヒムさん



を採用したいとの申し出があり、今回協会の持つネットワークからグローバルな人材を紹介しました。今後も協会と企業との連携を深め、若者の夢を応援していきます。

新入社員59名！



アジア未来への人材プロジェクト

初鹿野理事長が雲南へ出張

3月13日、初鹿野理事長が昆明へ出張し、会員の千々岩哲さんと雲南支部職員の林娜とともに昆明女子高校を訪問しました。史雲波校長と尹潔松書記は、去年初めて開催した協会主催による上海日本人学校との交流会を重要視しており、独自にパンフレットを作成していました。さらに史校長は「今後もぜひ継続していきたい」と積極性を示してくれました。

また、翌日14日には雲南省僑務弁公室を訪問し、楊焱平主任らと会談しました。

雲南省僑務弁公室
楊焱平主任との
会談の様子

楊主任は協会の長年にわたる雲南省少数民族への教育支援に感謝の意を表し、今年協会が活動を予定している日本雲南大学生交流スタディツアーや卒業式ふれあいの旅などで協力していくことで合意しました。協会は現地団体や組織との友好関係を築きながら、今後も幅広く活動していきます。

第3回「雲日国際大学生協力会合同会議」 雲南民族大学が新メンバーに

3月14日、雲南師範大学で第3回「雲日国際大学生協力会合同会議」が開かれ、協会雲南支部が実施したインターンシップなどについて意見交換しました。新たに加入了雲南民族大学の先生方、学生が、今回初めて会議に参加しました。

雲日国際大学生協力会は「アジア未来への人材プロジェクト」の一環として、協会の現地活動を支える雲南の大学生が立ち上げたボランティア組織です。会議には雲南民族大学のほか、雲南大学、雲南大学滇池学院、雲南師範大学の学生ら28人が参加しました。

会議では、協会雲南支部が2月に行った冬季インターンシップに関して「もっと期間を長くしてほしい」「各大学の募集期間をずらして、学生がより参加しやすいようにしたほうがいい」といった積極的な意見が出ました。

協会は現在、「25の小さな夢基金」で支援している昆明女子高校で、協力会の大学生による日本語授業を行っています。民族大学の藤裕人先生からは「民族大学の学生もぜひ参加させたい」との申し出があり、早速今学期から参加してもらうことになりました。

協会は「人材プロジェクト」の活動とし

て、8月以降、初めての試みとなる日本雲南大学生交流スタディツアーや、毎年恒例となった日本文化理解研修などを計画しています。発足から3年目を迎え、4大学で組織されることになった大学生協力会は、今年も協会の現地活動の可能性を大いに広げてくれることでしょう。

▼たくさんの関係者が集まり、積極的な話し合いがなされました

▲雲南省の未来を担う
大学生ボランティア
の皆さん

雲南支部では8名の☆ インターン生が活動しました☆

雲南支部昆明事務所では、夏季・冬季の年2回、日本語専攻の大学生を対象にインターンシップを行っています。2012年に始まった「アジア未来への人材プロジェクト」の一環で、大学生たちに仕事を実体験してもらい、アジアの未来を担う人材を育成することが目的です。

2月10日から21日まで行われたインターンシップには、雲南師範大学と雲南大学滇池学院の日本語学科から3年生計8名が参加。「25の小さな夢基金」プロジェクトの7年間の活動内容をまとめた資料や、学生ボランティア組織「雲日国際大学生協力会」のマニュアル作成、そして今年8月に予定される日本雲南大学生交流スタディツアーアへの提案づくりなどを行いました。パワーポイント等で資料を作り、東京事務局とのネット会議では日本語で発表しまし

た。慣れない作業ながらも、みな真剣に取り組んでくれました。

意欲のある学生が協会の活動に関わることは、学生自身のいい経験になるだけでなく、協会の活動をより多くの人に知つてもらい、支援者の輪を広げるきっかけにもなります。インターン卒業生の今後の活躍が期待されます。

雲南支部にて
東京の協会本部と
日本語を使って
テレビ会議をしています



▶インターンを通じて日本をより身近に感じることができ、今後も日本と深く関わって行きたいと決意を新たにしました



◎インターンシップに参加して…

この二週間のインターンシップで特に印象に残ったことはPPTを作ったことです。とても勉強になりました。今まで教科書の知識しかありませんでしたが、今回のインターンシップを通じて、新しい知識を得ると同時に、たくさんの課題を知ることができ、本当にためになりました。社会に出る前に、社会人として役に立つ知識やマナーなどについて勉強でき、とてもよかったです。

雲南大学滇池学院3年
汪錦鳳さん

新顧問

協会に新しい風!

一新顧問をお迎えしましたー

去る2月20日(木)、技術評論社5階の会議室にて、2013年度第4回役員顧問会が開催され、新たにふたりの顧問を迎えるました。穏やかな中に熱い情熱を持ち続けておふたりです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます!

新顧問 竹内 達
(株)サイサンライフ常務取締役
新顧問 清水 雄輔(次回)
(株)キツツ最高顧問

皆様、你好! この度、初鹿野理事長の磁石の様な熱意に引き付けられ、顧問をお受けした竹内と申します。自分の“出来る事”で協会の趣旨に協力して参ります。性格は明るく野球好きな体育会系です。宜しくお願ひ致します。

竹内 達
(株)サイサンライフ常務取締役



新スタッフ

東京本部にインター生登場!

東京本部事務局インター生 菊地瑛里

皆さま初めまして。菊地瑛里と申します。4月から東京本部のインター生として協会の活動に参加しています。私は現在、海外の大学へ進学する準備を進めておりますが、今年の3月まで大学で「地球市民学」という分野を学んできました。大学時代を通して途上国への開発に興味があり、特に教育の大切さについて考えてきました。インターネットで協会を知り、インター生を希望したところ、7月まで週に一度、経験を積ませていただきました。

協会に来て、さっそく新しい発見がありました。それは、教育を充分に受けられるようにするには、現地での職、つまり雇用

初インター活動後に
理事長と



を確保することが大切だということです。これまで私は、教育を充分に受けていないから職が見つからないのだと考えていました。しかし、教育を受けるにはお金が必要なので、教育支援をするのと同時に、現地の雇用機会を増やすことも必要になるわけです。協会が新しく立ち上げた「アジア新産業創造研究会」は、雲南を中心とする東南アジア地域で産業を起こし、現地での雇用機会を増やすとともに、その産業を維持できるよう人材教育を施そうとしています。私もアイディアを出して協力し、活動を通じて自分自身の成長もしていきたいと思います。

将来は私も、日本からの支援が少ない国や地域で産業を起こし、その土地に住む人々の生活基盤を作り維持させることに寄与したいと思っています。現地の人々が教育の大切さを実感し次の世代へと知恵を繋げていくよう、そんなお手伝いができるようになりたいです。

至らない点が多くありますが、皆様の暖かくも厳しいご指導を頂けたらと思います。何卒、よろしくお願ひ致します。

写真展

四万十市で写真展「笑顔を君に」開催
初の四国ぜよ!!

清流四万十川の川エビや天然ウナギで知られる高知県四万十市の市立中央公民館で2月26日から3月4日まで、今年最初の巡回写真展「笑顔を君に」が開かれました。今回、当協会会員で四万十市市議である宮本博行さんのご尽力により、四国で初めての写真展開催が実現しました。

期間中は沢山の方々から「素朴な笑顔が素晴らしい」、「子供達の笑顔を見て、幸福って何だろうかと考えた」、「綺麗な瞳から夢や希望を感じられます」などの感想をいただき、遠くまで来た甲斐があったと感じました。「幡多ライフサポートセンター」の皆さんをはじめ、ご協力ご来場くださいました皆さま、ありがとうございました。

これまで16回を数える写真展「笑顔を君に」は、これで北海道、本州、四国、九州すべてでの開催が実現しましたが、今後もまだまだ続けます。「うちの方でもやって欲しい」という方がいらっしゃれば、ぜひお声がけください。

小澤顧問、理事長、四万十市議・宮本さん▶

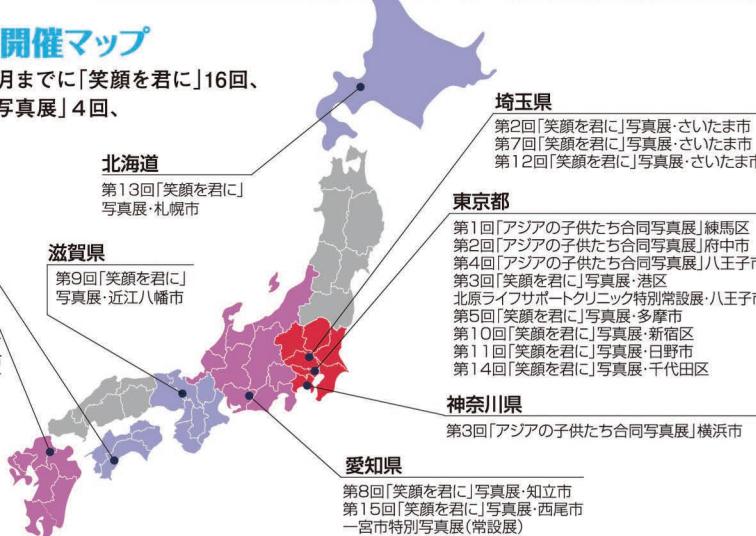


協会主催写真展開催マップ

2011年6月から2014年2月までに「笑顔を君に」16回、「アジアの子供たち合同写真展」4回、特別写真展3回開催

高知県
第16回「笑顔を君に」写真展
四万十市

福岡県・大分県
第1回「笑顔を君に」写真展・別府市
第4回「笑顔を君に」写真展・福岡市
第6回「笑顔を君に」写真展・福岡市
筑紫野市特別写真展



告知

「第1回日本雲南
大学生交流スタディ
ツアー」が始まります。

今年で3年目を迎える「アジア未来への人材プロジェクト」。雲南では、協会の主旨に賛同する大学生がボランティアとして協会の活動を支えてくれていますが、日本の若者と直接交流する機会は多くありません。そこで、日本の大学生にも参加してもらおう!と「第1回日本雲南大学生交流スタディツアー」を企画しました。雲南で現地大学生とチームを組み、「学生だからできる社会貢献」をテーマにワークショップを開いたり、協会が支援する小学校を訪問したりします。公募で集まった日本人大学生が8月末から雲南を訪問する予定です。次回会報ではツアーリポートをレポートします。乞うご期待!



イベバ

関西最大の国際フェアに初出展

関西最大の国際協力フェア、第21回「ワールド・フェスティバル」が今年2月、大阪市内の大阪国際交流センターで開かれ、関西在住の平松宏子会員、千々岩哲会員などのご協力を得て、聯誼協会が初めて出展しました。

2日間に渡るイベントの参加団体総数は182、来場者は17,500人に上り、協会ブースにも3万円近いご寄付が集まりました。スタッフからは「初参加で戸惑いもあったが、改善点も見え次回につなげられそう。来年も関西組の根性を見せます!」という頼もしい感想が。西日本にお住まいの皆さん、来年は是非ご参加くださいね。

【ボランティア協力(順不同・敬称略)】
大阪府立三島高等学校ボランティアチーム(日下七海、梅村愛、大田詩織、豊嶽咲月、梅原舞、上杉政哉、矢野童夢、山口雅俊、竹村陽子)、王爽、平松宏子、平松康弘、千々岩哲

イベント情報

日本雲南聯誼協会講演会

「ハードからソフトへ、日本と雲南の交流を深める教育支援」
講師: 初鹿野惠蘭理事長
主催: 町田国際交流センター
日時: 6月14日(土) 14:45 ~ 16:15
場所: 和光大学ポプリホール
鶴川・多目的室

第14回定期総会

日時: 6月15日(日)
場所: 八王子市学園都市センター
(東京都八王子市)

「25の小さな夢基金」ふれあいの旅
日時: 6月28日(土)~ 7月5日(土)
場所: 雲南省昆明市、
徳宏タイ族チンポー族自治州芒市

通算第17回 全国巡回写真展
「笑顔を君に」in JICA 地球ひろば
日時: 7月14日(月)~ 26日(土)
場所: JICA 地球ひろば
(東京都新宿区)

通算第5回 合同写真展
「アジアの子供たち」

日時: 8月24日(日)~ 26日(火)
場所: かながわ県民ホール
(神奈川県横浜市)

アジア未来への人材プロジェクト
第1回日本雲南大学生交流スタディツアー
日時: 8月29日(土)~ 9月6日(土)
場所: 雲南省昆明市他

第3回支援校児童劇巡回公演事業
※予定
合同主催: NPO法人劇団道化
日時: 8月31日(月)~ 9月13日(土)
場所: 雲南省内の協会支援小学校

第14回 日本雲南聯誼協会
定期総会のお知らせ

2014年 6月15日(日)
10時~12時(12:00~懇親会予定)

八王子市学園都市センター第5セミナー室で開催いたします。

「25の小さな夢基金」
ふれあいの旅予告!

今年も6月28日(土)~ 7月5日(土)にふれあいの旅が開催されます。雲南省昆明市、徳宏タイ族チンポー族自治州芒市を訪問予定です。今年も感動的な旅になること間違いない! 皆さん奮ってご参加下さい!

お申込み、お問い合わせは事務局
03-5206-5260まで

編集後記

先日、オバマ米大統領が訪日し、TPP(環太平洋連携協定)をめぐって安倍晋三首相と厳しいやり取りを交わしました。同じ時期に舛添要一都知事が訪中、汪洋副首相と会談しました。汪副首相は舛添知事に、日中の自治体間の協力関係を中国政府も支援すると言ったそうです。中国側も関係改善したいのだという本音がのぞいたのでしょうか。国の看板を掲げると、政治家は建前に終始せざるを得ないかもしれません。でも、協会は肃々と民間の活動を続けていけばいいと思います。だって、本音っていつまでも隠しきれるものじゃありませんからね。

(編集長・木本一彰)